

令和元年度 真和中学・高等学校 学校評価

学校目標	大乘仏教の精神を根幹に、人格の陶冶・身心の健全な発達・個性の伸長を図る教育を實踐し、大学進学により将来、社会の各分野における指導者となるべき人材を育てる			
具体的目標	○ 全教科・全領域で報恩感謝の心を育てる。 ○ 基礎・基本の充実、自調・自考による真(深)の学力を培う。 ○ 人への礼讓・勤勞の智慧に通じる掃除の徳を体得する。		○ 言行に品位・品格が発露する態度を養う。 ○ 健全な身体・心の育成を図る。	
	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
学校経営	① 募集・広報活動の充実 ② 高Ⅲ生の進路保障及び入試改革に対応するための総合的・多面的な学力の育成 ③ 校内組織力の向上	① ホームページや学校説明会等を利用して、学校の特色を発信する。 ② 授業、課外の充実 ③ 文科省・各種審議会の情報にアンテナを張り、素早く対応する。 ④ 定例の運営委員会等を開催し意思の疎通を図る。	B	① 更新できる部分については随時更新している。 ② 入試対策を意識し、早めの対応を図り、成績不振の生徒に対しても放課後の特別課外で対応でき底上げにつながった。 ③ 運営委員会の定例化は昨年同様定例化でき、学年会などを通じて職員全体に意思疎通ができた。

1 校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
総務部	① 校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする。 ② 年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする。 ③ 教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する。 ④ 寮保護者会、青友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める。 ⑤ 学校要覧、真和通信、青友会だよりの編集、管理を行う。 ⑥ 全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する。	① 各種会議計画、名簿づくり各学年との連携確認を行う。 ② 体育館で始業式、終業式などの速やかな進行のため、放送による生徒の誘導を行った。 ③ 教具、用度品の過不足の調整、生徒と協力して消耗品の調整、管理を行う。 ④ 春、秋二回の寮保護者会の企画、5月の青友会総会の案内、寮生の学習指導の充実をはかる。 ⑤ 各部との連携を行い、迅速な編集を行う。 ⑥ 全職員の協力のもとに、教育計画の実施を行う。	B	① 年度末や年度当初計画を作成、生徒保護者名簿は例年より迅速に作成したが改善の余地あり。 ② 早めに計画案を作成し、十分な準備を行う必要がある。 ③ 消耗品持ち出し表に使用場所、品目、個数、氏名を書かせ、消耗品の管理徹底を行った。消耗品の調達では教員が行うことは非常に難しい。消耗品調達専属の事務員が必要である。 ④ 寮保護者会と連携し保護者会の企画、青友会役員と連携し青友会総会、役員会、文化祭の企画、案内を予定どおり行った。 ⑤ 学校要覧、真和通信、青友会だよりを予定どおり発行したが改善の余地あり。 ⑥ 寮生指導においては多数の先生に協力してもらった。
教務部	① 6年間を見通した教育プログラムの確立 ② 新入試制度に適合した教育課程の確立 ③ 指導要録・出席簿の管理の徹底 ④ きめ細かい学習指導の確立 ⑤ 低学力生徒の指導の充実	① シラバス作成の徹底 ② 各教科による教育課程の分析・検討の実施 ③ 毎日の生徒出欠の入り力の徹底 ④ 毎日の授業の充実、出張・年休の際の授業振替の実施徹底 ⑤ 考査後の温習課外の実施	B	① 中高一貫を見据えたシラバスの作成が必要である。 ② 新学習指導要領を正確に把握する必要あり。 ③ 出欠管理はほぼ達成できた。 ④ 課題等与えることが多かった。できる限り振替を実施してほしい。 ⑤ 中学部では、国・数・英を実施した。
生徒指導部	① いじめの早期発見 ② 携帯電話・スマートフォンのマナー ③ 挨拶の励行 ④ 自転車通学のマナー ⑤ 学期に一度の頭髪・服装検査	① 各クラスでの二者面談、いじめアンケートを実施しての瞬時な情報共有 ② 各クラスでの情報モラル授業、専門家による情報モラル授業の実施 ③ 正門での四恩塔一礼の徹底、生徒より早く教師側からの挨拶の徹底 ④ 登校下校時、通学路での左側通行、イヤホン指導 ⑤ チェック項目の作成、各クラスでの検査、生徒指導部での確認	B	① いじめアンケートを実施し、情報共有がスムーズにいった。 ② 熊本県でも多くのSNS問題があり、加害者にも被害者にもなりうる中学年代での情報モラル集会を実施した。今後は高校でも実施したい。 ③ 四恩塔一礼については多くの生徒が昨年よりも出来ていたと感じている。挨拶については教師側が更に徹底できるように努めていきたい。 ④ 登下校におけるマナーに関して、特にイヤホン、左側通行について、昨年よりも改善が出来ている。
進路指導部	① 大学入試合格者数を増加させる。特に医学部の現役合格者数。 ② 教職員に進学に関する知識を持ってもらう。	① 低学年から学習習慣を確立する。模擬試験の活用を促す。受験に対する意識を早くから意識させるため受験情報誌の配布をし、HRで活用する。身近に卒業生がいることを知らせる。 ② 勉強会等の案内を知らせる。次年度から始まる新入試を知り、生徒に不安を持たせない。	B	① 年度初めに「ポート」の取り方、1年間の進捗を授業で説明。学力観の変化に対応して授業を工夫する先生が多くなった。 ② 教科分科会の説明会への参加をお願いしているが、より多くの人の参加が課題。
保健体育部	① 健康意識の高揚を図る ② 基本的な生活習慣の確立 ③ 安全・安心な教育環境づくり	① 年1回の保健講話や3種類の検診を実施し、保健便り「リフレッシュ」を配付 ② 中学生は、能率手帳を活用した担任指導と保健体育の授業を通じての教科担当者による指導、高校生は保健の授業や体育の授業を通じての教科担当者による指導 ③ 保健委員による水質検査や健康チェックカード、施設設備の安全点検、美化委員主導による生徒の美化活動	B	① 養護教諭や保健委員と協力して計画通りに実施できた。保健委員の発表も評価できる内容で、他の生徒たちへの刺激になったと思われる。 ② 基本的な生活習慣については、家庭環境や保護者の協力に違いがあり、個人差が大き感じた。指導に工夫が必要と思われる。 ③ 検査やチェックは計画的に実施できているが、美化委員会が開かずに、美化委員主導の美化活動ができていない。
募集・入試対策部	① オープンスクールや入試説明会及び塾や中学校での説明会等の募集活動を強化する。 ② 小中学校や塾等への適時適切な情報の提供と対応。 ③ 入試業務の精査しミスのないよう確認を徹底する。 ④ HPや塾や中学校への説明を通してオープンスクールや入試説明会等の周知を図り生徒募集に繋げる。	① より多くの生徒が本校への志望を抱くような募集活動の研究する。 ② 小中学校や塾に対して本校への理解が更に深まるように情報の提供を強化する。 ③ HPや学校・塾への案内・説明等を通して募集や入試についての情報を迅速にわかりやすく提供し、より多くの人に周知を図る。	B	① 本年度の「オープンスクール」では、生徒・保護者を含め中学は235名、高校は約530名の参加者があり、中学は昨年度並み、高校は40名程度の減であった。入試説明会は第1回が台風で中止、第2回で中学144名、高校75名(生徒数のみ)となり、2回分程度の参加があった。 ② 塾や中学校への募集資料の発送及びHP等を利用して説明会や募集・入試情報を案内し、新着情報等にも掲載してより多くの人への周知を図った。
事務部	① 生徒の夢実現のため担任や学年主任及び各校務分掌の部長と連携し、意思疎通をはかる。 ② 対外的な苦情電話等や保護者の問い合わせに対しては、学校の信頼を損なうことのないように、迅速適切な姿勢で臨む。 ③ 中学校の就学支援金や従来から行われている高校の就学支援金については、保護者への連絡漏れがないように担任との密な連携をとり、適正かつ円滑な執行に努める。 ④ 生徒の動静(転学や退学及び休学等)を担当や学年主任と事前に連携をとり、さかのぼっての事務処理のないように務める。校納金の納入については、長期未納がないように早め早めの対応を心がけ、担任及び学年主任と密な連携をとる。	① 生徒の夢実現のためには、まず職員のスキルアップを図る必要があり、職員の対外的な研修を促し財政的にも支援する。 ② 外部や保護者からの苦情や問い合わせ等に対しては、まず相手の立場に立ち、電話の真意を正確につかみ、決して一人で対応しない。 ③ 保護者向けのプリントで制度の浸透を図り、未提出のところに、担任を通しての呼びかけや事務室から電話での連絡を徹底して行う。 ④ 日常的に、事務室から職員室にフットワーク軽く向歩き、担任や学年主任及び各係とのコミュニケーションをとり、生徒の動静を注視する。未納が続くおそれが予想される場合には、必ず担任と学年主任と連絡を取り合い、まず、担任が保護者への電話で納入のお願いを行い、担任・学年主任と事務室との連携で納入を促していく。また、保護者に学校に具体的な納入計画を提出していただく。	B	① 職員との連携をとり、生徒に還元可能な出張については、可能な限り財政的に支援できた。 ② 電話での問い合わせについては、必ず氏名を尋ね、決して独りでは対応せず、責任者へ些細なことでも報告することができた。 ③ 保護者への様々な説明文書の配布は、保護者へ確実に文書が届くように、保護者へのメールでの連絡も平行して行い、文書配付漏れをなくすことができた。 ④ 校納金の未納者が発生しないように、日頃から、会計担当は担任及び学年主任との意思疎通をはかり、早め早めの保護者対応に努めた。その結果、長期の未納発生をなくすことができた。また、進路変更等で転学や退学を行う場合には、事前に校納金の納入状況を会計担当と担任の間で連絡を取り合い、必ず校納金を完納してからの手続に入る事を認識させる事ができた。

4段階評価

- A：大いに改善あり
- B：だいたい改善あり
- C：やや改善なし
- D：全く改善なし